

令和6年度 第1回 甲賀市総合計画審議会 会議録

開催日時 令和6年5月15日（水曜日）18：00から19：30まで

開催場所 甲賀市役所別館 会議室101

出席委員 石野委員、内田副会長、大北委員、大隅委員、菊池委員、谷口委員、寺井委員、西田委員、服部会長、原田委員、松村委員

事務局 吉川総合政策部長、藤橋総合政策部次長、橘政策推進課長、近藤室長、熊野課長補佐、橋本係長、植西主査、宮治主査、山本主査、中井主事

- 会議次第**
- 1 開会
 - 2 協議事項等
 - (1) 第2次甲賀市総合計画(第3期基本計画) たたき台について【資料1】【資料2】

関連資料

- ① 第2次甲賀市総合計画（第3期基本計画）に係る審議委員意見書のまとめ【関連資料1】
- ② 市民意識調査【関連資料2】

- (2) 意見交換（グループ協議）
- (3) スケジュール説明（予定）

- 3 その他
- 4 閉会

1. 開会

2. 協議事項等

(1) 第2次甲賀市総合計画(第3期基本計画) たたき台について【資料1】【資料2】

事務局：【資料1】に基づき、説明。

A委員：素晴らしい内容。チャレンジプロジェクトの3番について質問するが、スマートシティを目指しているのか。

事務局：スマートシティはICTの先端的なイメージ、どちらかというコンパクトシティというイメージである。一定エリアに集めてくることが生活の利便性を保つ。それで経済を守り、利便性を確保すると考えている。チャレンジプロジェクト3番にあるように、選ばれるエリア形成をしていきたい。

事務局：【資料2】について、事前に意見をいただき、まとめた資料を【関連資料1】として用意している。グループディスカッション形式で、【資料2】を主なテーマとして議論をしていただきたい。各テーブルで、自己紹介、意見交換、ディスカッションという流れです。協議内容については記録をとり、議事録として掲載する。

【関連資料1】に基づき、説明。

(2) 意見交換（グループ協議）【資料2】

Aグループ

B委員：甲賀市の医療費助成について、この20年で良い方向に変化した。子育てをしていた立場として、大変有難かった。今は医療費助成があることが当たり前のように思う方もいるが、甲賀市がこれだけやっているということをもっと市外へアピールすべき。

A委員：大学進学や就職を機に若者が市外へ流出している。若者が戻ってくる施策が必要。職員の方も市外の方が多いと聞いている。災害が起こったときに、市外の職員は緊急に出動できるのか不安。

C委員：若者の流出を防ぐことは難しい。防ごうとすると反発して流出する。客観的に甲賀市を見ても、らうために一度市外へ出ていってもよいと思っている。重要なのは戻ってきてもらうスキームづくり。

いち経営者として、20代～30代の方が意見しやすい職場づくりを意識している。若者が自分の意見を反映できる仕組みづくりが重要。

B委員：甲賀市は戻ってくるには良いところだと思っている。それは子育て支援の充実のほか、一学年あたりの生徒数は減っているが、田植えや茶摘みなど、少人数だからこそできる経験もある。

C委員：お示しいただいた計画どおり実行できれば、よいまちになると思う。

甲賀市は、充実した子育て支援のほか、農業や観光でも多くの資源があるが、あるがゆえに

活かしきれていない。シティプロモーションに関して有能な人を起用してもよいのでは。

D委員：鉄道利用の促進を進めるのであれば、駅までの交通手段が必要。バスの減便は運転手の労働時間の問題が大きく起因していると聞いているが、減便はそれに逆行している。多様性を認め、細かい気配りができるまちであれば、安心して定住できると思う。

A委員：バスの減便について、コンパクトな車両でよいので、便を増やしてほしい。

スマホで簡単に呼べるようなオンデマンドバスも検討が必要。

B委員：空き家対策について、空き家は多いと聞くと、甲賀市として解体して更地にしたいのか、空き家バンクへの登録を促したいのか、目的が見えてこない。

A委員：高齢化による離農（遊休農地）について、甲賀市としてもう少し踏み込んでほしい。

グループ討議おわり

Bグループ

E委員：名古屋市近郊のまち出身で、人口減少を感じず生活してきた。現在は、県内他市在住であるが、人口減少の状況は悪くない。

F委員：市内出身で、高校は市外に通っていた。社会人になってから住宅団地にUターンした。田舎暮らしの大変さを感じており、生活するには都会の方が良いと思っている。

G委員：市内在住。名古屋の大学に進学後、就職を機にUターン。20年前障がい者となり、当時の社会人生活を続けるのは困難だったが、定年退職まで続けられた。定年後は、障がい者を支える側の活動をしている。

F委員：子育て・教育の意見は他のグループでも意見が出るだろうから、違う分野に言及したい。市に金が集まらなないと、人も集まらなと思う。魅力的な場所が点在しているから人が集まらない。エリア一帯で町や活用するなど、一か所に集中していると人も集まるのではないかと。また、良い事業があるのに、知らない市民はたくさんいる。PRが不足していると思う。

E委員：行政は、民間とは違い、派手ではなく地道な取り組みのため、市民に伝わらないものも多いと思う。情報発信でカバーするのにも限界がある。例えば、ランドマーク的なもの、目に見てわかるものがあると、市民にも伝わりやすいし、人も集まりやすいと思う。一方で、「選択と集中」という考え方は、見込みが外れると大変なことになる。そもそも、「答え」がわかっているならば、民間がやっていると思う。「選択と集中」は単なる一極集中を目指すものではなく、事業の優先順位付けの手法であるべき。

G委員：障がい者にとっては、情報へのアクセスに「壁」はつきもの。良いものが伝わってこないということは多々ある。デジタルの力を使えば、もっとみんなに情報が伝わると思う。加えて、移動手段へのアクセスにも「壁」がある。人口減少に伴い、公共交通機関が減便するのは理解しているが、代替案が必要である。

また、市内に企業が少ないことは問題だと思う。就職の機会があれば、人口のせき止めになり、人口減少にも寄与するのではないか。

「支援」は、単に「助ける」ということではなく、当人に自立させるための手法でもある。支援には地域の連携が必要にいたるため、自治振興会単位での活動を活発化することは重要である。

F 委員：移動手段へのアクセスに「壁」が付きまとうことは、みんなに当てはまる。車がないと生活は厳しい。乗合タクシーがあることも、知らない人が多いと思う。

G 委員：今までは、タクシーもなかったので、タクシーができたことは一歩前進である。このように、一歩踏み出すことが大切。

グループ討議おわり

Cグループ

H 委員：甲賀市内の事業所に市外から通っているが、勤め先にシティプロモーションについて担当する部署が設置しており、地域を盛り上げることが仕事となっている。人材確保については、どの企業も困っているという印象がある。工場といった物的資本はあるが、人的資本である労働者がいないという状態。M&Aや人材紹介が、本来の仕事に付随する仕事になりつつある。公共施設・インフラ・商業施設がないとまちに人は集まってこない、投資してインフラの整備をしなくてはならないと感じている。

I 委員：営業職をしており、子どもたちと夫の両親と2世帯で住んでいる。関東から移住したが、甲賀市は良いまちだと感じている。行政に関して、子育て関連と介護関連の受付窓口が一緒だったことが素晴らしいと感じた。関東に住んでいたときの役所では窓口がバラバラだったが、甲賀市は相談窓口が一本だったことで一度に相談に乗ってもらえ、保健師さんが迅速に動いてくれた。ダブルケアだったが、甲賀市に住んでいたからこそ乗り切れたと感じている。なにか希望を持った時に、自分の力と人の助けでその希望を叶えられることや、気持ちと考え方が大事であると感じている。

【関連資料1】に思いや価値観をそれぞれ提示しているが、甲賀市は今すでに豊かだと思う。現実的なところを見ながら、今の延長線上で希望を叶えられることが第一歩ではないかと考える。

J 委員：10年ほど南米で地域開発をやっていた。外国人相談窓口では、円滑なコミュニケーションが必要だと考えている。全体的にデータを見て何が言えるのかといった分析が不足しているように思えた。よって、【資料1の2】に分析が記載されていることが良いと感じた。

K 委員：人材確保に困っている。沖縄や九州といった遠方まで求人に行くことがある。地方在住の方に甲賀市に来てもらって働いてほしいと考え、求人に行っている。高卒で初めて甲賀市に来て

いただく際に、甲賀市の魅力のアピールについて考えるが、魅力を伝えることが大変であると感じている。やはりアピールできる福利厚生、地域の補助など、送り出す親御さんが安心するような支援があればいいのではないかと感じている。企業努力も必要だが、そういった方々を受け入れようと思えば、甲賀市に住もうという気持ちになるようなことを考えなくてはならないのではないかと感じている。

J 委員：人手不足がキーワードだが、時間単位で働くことができるアプリなどはご存じですか。世界中の人が共通して持っているのは時間。スーパーマーケットの陳列で2時間だけ働くなど、隙間時間で仕事ができる仕組み。アプリで登録すれば働け、例えば今日2時間空いていて働けば、翌日にはお金になる。こういった既存の仕組みを活用できないのかと考える。工場では品質や安全の問題があるので難しいかもしれないが。

文化や価値観の違いがあるので、企業単独で何かを実行するのは難しい。企業間のタイアップで何かできないか。甲賀市なら安心して働けるという安心感が必要なのではないかと考えている。

K 委員：ベトナム人の技術系人材で来てくださっている方が多い。ラインに入っていていただくワーカーが足りない。

事務局：国と国とのルールで職種が決められているのではないかと。コンビニで働いている方と、工場で働いている方は、入国の許可理由が異なっている。

J 委員：家族滞在、学生、技能実習生といった方が多い。

事務局：制度と現場のマッチングを戦略的にやっていかななくてはならないが、相手国の種類が多くなると、言葉や文化が多様になり、難しい部分もある。

J 委員：外国人の方々は、就労に制限があるが、日系人の方は制限がない。

K 委員：在留資格によっては副業も認められているが、縛りが難しいと感じている。

事務局：外国人市民が増えて課題は2つある。医療と、定住される方の高齢化。福祉を受ける権利があるので、生活の安定性、健康管理が必要で、市の負担増の可能性も考えておかなくてはならない。

J 委員：年金の受給の問題を認識している。在留外国人で40代から50代の方が日本に住み続けた場合、年金を受給できるように、保険料を払うことへの啓発が必要だと感じる。

H 委員：住宅ローンが組めない永住許可のある方が家を探している相談が多いと感じる。

J 委員：賃貸住宅のオーナーが、外国人の入居者を嫌がる傾向にある。人口が増えると、それはそれで問題が増える実感がある。介護も、言葉の壁の問題がある。

I 委員：若者の定住を促進したいとあるが、自宅の建て替えで大変だったのは、調整区域で許可が下りなかったこと。中山間地域での建て替えだったが、こういった許可申請が面倒で、地域外に出て行ってしまわないかと考える。この制度の緩和や居住区域の緩和をしてくれないと、役所に対して冷たいと感じる原因になるのではないかと。水口・甲南地域は栄えているのに昔ながらの家が多いが、街並みについてのこだわりがよくわからない。

H委員：田んぼの有効活用もほぼ叶わない印象がある。

J委員：田舎はコミュニティの維持にお金がかかる。外国人が空き家に入ると受け入れが難しいし、サポートが難しい。

I委員：まちなみの在り方を守りたいのもわかるが、若い人の持っている概念は違うと感じる。押しつけや決めつけを除いて、「そういう考え方もあるな」としないといけないと感じる。そうでないと、孤立してしまう。

また、小学校の人数が少ないと感じる。3校集めても少ない。小学校単位のまちを壊したくないという年配の方々の意見が強すぎると感じる。少ない人数の小学校で育つと、中学校に上がったときのコミュニケーションに困難を感じるのではないかと思う。子供の感情表現が乏しくなるのが心配である。

事務局：大きい学校の方がいいか。

I委員：少人数学校派の方もいる。自身の家族は、大きい保育園を選択して入園した。子どもの頃に大人数に揉まれて、色んな人がいるということを学ばせたかったからそういった選択をした。揉まれる環境もある程度必要と考えていて、子どもを守りすぎたら違う土地に行ったときになじめないのではないかと考える。自身は、自立の促進には大人数の学校での教育の方がいいと考えている。

事務局：市内には21の小学校がある。保護者主導で学校がまとまった地域もあれば、少人数教育を残したいと考えている地域もある。

H委員：市内の中学校に仕事で講演に行ったら外国籍の生徒さんが数人いて、彼らに促されているのか、全体的に拳手が盛んだった。これを見て、違う文化の子ども同士がいい影響を与えあっていると感じた。偏見を持っていないと良いと感じた。

事務局：ある程度のまとまりも必要、田園部での居住の希望もある。全体的に減っていつているということは事実としてある。

J委員：70歳以上の外国人の住民で、年金がない方が多いが、年齢の壁で働けないという事象を認識している。

K委員：定年があり、年齢制限的には難しいところもある。

事務局：シルバー人材センターという手もあったが、仕事内容にも変化がある。庭仕事での需要が多いが、人材として庭仕事ができない人が増えていると聞いている。

今回の審議会では、総合計画の概要にあたる部分を話し合っている。

多くの事業を動かしながらやっていつているので、今後どこかのエッセンスに反映できるようご意見をうかがった。活発な討論をありがとうございます。

グループ討議おわり

(3) スケジュール説明(予定)

事務局：【次第】に基づき、今後のスケジュールを説明。

4. 閉会